

第1章 計画の概要

1. 計画策定の趣旨

近年、急速に少子高齢化が進み、高齢者のみの世帯や単身世帯の増加などを背景として、地域における住民同士のつながり意識の希薄化や地域活動の担い手不足など、住民同士で支え合う力が弱まってきたことにより、社会的孤立や孤独死が大きな社会問題となっています。

町民の生活や地域のあり方が多様化、複雑化する中で、ひきこもりや「8050問題」をはじめ、介護と子育てを同時に行う「ダブルケア」など、従来の縦割りの単一制度やサービスだけでは解決することが困難な福祉的課題も生じています。

そのため、世帯の複合的なニーズやライフステージの変化に柔軟に対応できるように、丸ごとの支援が可能となる重層的な体制整備に取り組んでいく必要があります。

このように複雑な問題が山積する中、追い打ちをかけるように新型コロナウイルス感染症が、世界的に感染拡大し、私たちの生活を根底から覆してしまいました。外出自粛やテレワーク、時差出勤等の新型コロナウイルス感染症対策の影響により、様々な課題を解決する上で重要な「つながり」を様々な場面において持ちづらくなっており、問題解決への道のりを複雑化させています。

こうした暮らしの変化や社会構造の変化を踏まえ、これまで「福祉」とは、支援を必要とする課題を抱えた人を救済するためのもの、といったイメージがありましたが、今日では、社会的・経済的に困難な立場にある人への支援はもとより、支援を必要とする人もそうでない人も、誰もが役割を持ち、同じ社会の一員としてお互いに認め合い、支え合いながら生活における安心感と生きがいを得ることができる社会を築くことが求められています。

本町では、国や県の動向や社会福祉法の理念を踏まえ、平成30年3月に「第3次佐川町地域福祉アクションプラン」を策定し、基本構想である「**ささえあい かんじるぬくもり わがまちさかわ**」を達成するために、行政と社会福祉協議会が連携・協働のもと、各種福祉施策を推進してきました。

今後も個別の福祉施策だけでは支援が困難な地域生活課題へ対応するため、町全体での包括的な支援体制づくりを始めとした施策の推進を図り、より身近な地域から、校区、町全体へと重層的に多様な主体が協力し、高め合うことができる「地域共生社会」の実現を目指します。

このように、お互いを尊重し、助け合うことのできる人の循環が地域活性化につながることで、活気のあるまちづくりの持続性を住民自身が生み出す「持続可能な地域づくり」をテーマに「第4次佐川町地域福祉アクションプラン」（以下「本計画」）を佐川町社会福祉協議会と協働で策定しました。

【当町における策定の経過】

準備期間	平成17年～平成19年：地域で座談会実施5地区×2回、作業部会の開催
第1次計画	平成20年～平成24年：住民組織づくり
第2次計画	平成25年～平成29年：住民活動拠点づくり
第3次計画	平成30年～令和5年：支え合いの仕組みづくり

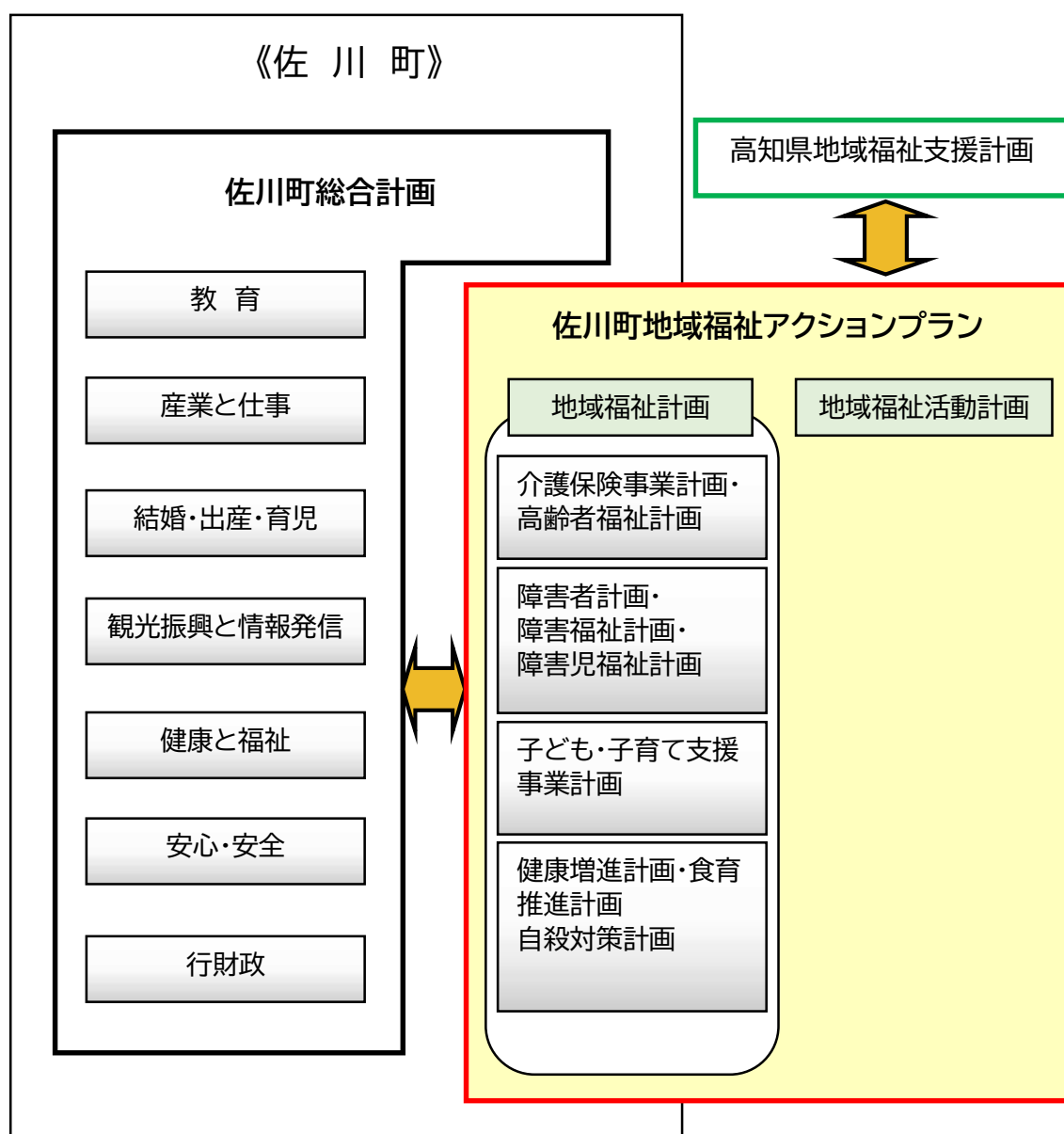
2. 計画の位置づけ

本計画は、主として「住民主体の活動」に焦点をあて、行政等関係機関とのパートナーシップのもとに住民が地域で行う取り組みの方向性や基本的な考え方を示しています。

本町の上位計画である「佐川町総合計画」をはじめ、分野別福祉計画との連携・調整など、関連する他の部門計画との整合にも配慮するものです。

計画推進に当たっては、各計画との連携や調整を図るとともに、新たな課題や環境の変化に柔軟に対応できるように努めます。

【他の計画との相関図】



3. 計画の期間

本計画の期間は、令和6年度から令和11年度までの6年間とします。

地域のニーズや社会情勢の変化に対応し、着実に取り組みをすすめていくため、年度毎に計画の進捗状況確認を行います。また、計画の中間評価を行い、必要に応じて計画の見直しをはかります。

【計画の期間】

2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
第5次総合計画							第6次総合計画			
第3次地域福祉アクションプラン							第4次地域福祉アクションプラン			
第7期介護保険事業計画・ 高齢者福祉計		第8期介護保険事業計 画・高齢者福祉計画			第9期介護保険事業計 画・高齢者福祉計画			第10期介護保険事業 計画・高齢者福祉計画		
第3期障害者 計画		第4期障害者計画						第5期障害者計画		
第1期	第2期子ども・子育て支援事業計画					第3期子ども・子育て支援事業計画				

4. 計画策定の体制

第4次計画策定に当たっては、第1次計画から推進体制の核となっている「みんなで福祉のまちづくり委員会」のメンバーを中心として、策定委員会を設置し、アドバイザーを迎え、佐川町健康福祉課と佐川町社会福祉協議会とで事務局体制を組みました。

策定委員会……各地区の自治会長会会長や、地域活動を行う団体の代表者、ボランティア団体代表者が、計画策定に当たっての軌道修正や、承認を行います。また策定後の計画推進のために重要なメンバーとして構成しています。

アドバイザー…高知県立大学社会福祉学部の中崎きよむ教授をはじめ、高知県中央西福祉保健所地域支援室、高知県社会福祉協議会地域福祉課などにアドバイザーとしてお越しいただきました。

事務局体制……地域福祉計画及び地域福祉活動計画の同時策定のため、佐川町健康福祉課及び佐川町社会福祉協議会において合同事務局を設置しました。

5. 計画策定の経過

地域お世話役さん対象アンケート

“地域のお世話役さん”の位置づけにある方に、第3次計画策定時と同様の内容で、地域の状況等について伺うアンケートを実施。

◆調査対象：地域のお世話役さん

自治会長、自主防災組織代表者、民生児童委員、福祉委員、ふれあいサロン協力員、百歳体操お世話役、各地区の地域づくり団体・協議会関係者、社会福祉協議会役員

◆調査期間：令和5年6月1日～令和5年6月14日

◆調査方法：郵送による配布・回収

◆回収率：67.4%（288名）

振り返り会 令和5年7月6日（木） 出席41名

- ・講演「第4次佐川町地域福祉アクションプランについて」
講師 高知県立大学社会福祉学部教授 田中きよむ氏
- ・第3次計画の評価（各地区ごとにグループワーク）
- ・計画策定スケジュールの確認



みらいトーク（座談会） 第1回目

各地区の人口動態・介護保険ニーズ調査結果・お世話役さん対象アンケート結果を報告。各地区のお宝と課題を整理することで現状を再確認し、それをふまえ、今後取り組んでいきたいことの検討をグループワークにて実施。

9月14日 尾川地区 23名
9月15日 斗賀野地区 34名
9月12日 加茂地区 14名
9月26日 佐川地区 26名
9月29日 黒岩地区 15名



黒岩地区



加茂地区



佐川地区

みらいトーク（座談会） 第2回目

1回目座談会の結果をふまえ、各地区計画の目標や文言を加筆修正し、その後、今後6年間で取り組む具体的な活動についてアイデア出しをグループワークにて実施。

10月18日 黒岩地区 14名
10月24日 加茂地区 10名
10月23日 佐川地区 19名
10月17日 斗賀野地区 21名
11月 8日 尾川地区 16名



斗賀野地区



尾川地区

策定委員会

11月30日 第1回策定委員会
1月18日 第2回策定委員会
2月15日 第3回策定委員会

